

彩雲館ケアホーム 地域連携推進会議 (記録)

日時： 令和8年2月25日 (水) 14:00~16:00

会場： いろどり

出席者： 津島市役所福祉課O氏・津島市社会福祉協議会T氏
愛西市社会福祉協議会M氏・マリアルームM氏
津島市江東町民生委員I氏・津島市江東町民生委員M氏
愛西市大野山町総代M氏・税理士H氏・入居者M氏・保護者Y氏
理事長・管理者・サービス管理責任者・世話人

会議の開催に先立ち、理事長より出席された皆様へ挨拶をさせていただきました。

(議題)

1 会議

○事業所運営および支援内容 (スライドにて説明)

- ・ まずはじめに、サービス管理責任者から地域連携推進会議の目的やガイドラインで示されている構成メンバー等について説明を行った。
- ・ 続いて、共同生活援助事業についての概要説明を行った。
- ・ 事業所の概要説明を行った。活動の場ではなく生活の場として入居者にとっての「安心・安全・楽しい」を提供することを第一としながら、ご家族や働く職員にとってもアットホームな場所であることを目指していること、その為に手厚く人員配置をしながら運営していることを紹介した。

現在運営している2拠点（七彩ホーム・いろどり）の定員や入居人数、平均年齢や平均障害支援区分などの紹介を行った。

○入居者の生活の様子

- ・ 入居者の生活の主な流れについての説明を行った。

○意見交換 (質疑応答)

【参加者→事業所】

Q： 何人くらいの職員を配置しているのか？

A： 時間帯によってばらつきはあるが、食事や入浴など職員が必要な時間帯は重点的に配置している。七彩ホームは4人~5人、いろどりは5人~6人ほど。

Q： 昼間は日中活動の事業所に通っているとのことだが、移動手段は？

A： 現状は全員事業所の送迎を利用している。

Q： 世話人と生活支援員の違いは？

A： 世話人は主に食事や洗濯などの家事部門や入居者の生活相談等を担う。
生活支援員は主に食事、入浴、排泄など生活に関わる部分の介助を担う。
これらは制度上示されていることだが、彩雲館ケアホームでは肩書ではっきりと線を引くのではなくお互いの領域に携わりながら業務にあたっている。

Q： 食事は全て調理して提供しているのか？

A： ご飯と味噌汁はこちらで調理し、おかずは調理された物が冷凍で届くので湯煎して盛り付け提供している。

Q： 職員の男女割合はどのようになっているのか？

A： どちらのホームにも男性職員は配置しているが、割合としては女性が多い。女性入居者に対して男性職員が入浴や排泄の介助に入ることはないが、逆はどうしても多くなってしまふ。もちろん理想は同性介助だと捉えている。
女性の洗濯物も男性職員が触れないように配慮している。

Q： 食事の際、形状を細かくするなどの個別対応はあるのか？

A： 健康上の理由から、量の調整をして提供している方がいる。
食材の温度をぬるめで提供している方もいる。
咀嚼や嚥下の機能に不安がある方は一口大にカットして提供している。
塩分の制限がある方は汁をお湯で薄めて提供している。
※食事そのものを一人だけ別メニューに変えるということはない。

Q： 薬を飲んでいる方はいるか？どのようにして飲んでいるのか？

A： 服薬が必要な方はいる。
全て職員が管理し服薬が必要なタイミングで準備し服薬を実行している。
服薬をする際は、服薬対応者と確認の2名体制で実行し、事後に記録表にサインをする。
過去に人で服薬を実行していたこともあったが、それゆえのトラブルが発生したことがきっかけで現在の2名体制に変遷していった。
※世話人とサビ管で実演し説明を行った。

Q： 入居者に対して利用のお断りをしたケースはあるか？

A： ご本人側のニーズに対して事業所が応えられず退去に繋がってしまったケースはあるが、事業所側から利用を断ったことは無い。

【参加者→入居者】

Q： ホームの生活で何が一番楽しいか？

A： ご飯

【参加者→保護者】

Q： 保護者の立場から見てホームでの生活はどうか？

A： 本人が若いうちの方が吸収力があると考え、ホームへの入居を考えた。その時に本人にも説明した。しかし、「はい」と返事はするものの理解は難しいと考えている。

あとはホーム生活を送る中で定着していくことを期待している。

現在週末は自宅に帰ってきているが、月曜日になり本人が出発を拒むようなことは無いので嫌がってはないと考えている。

もともと慣れるまでに時間がかかるタイプだが、いどりは彩雲館で勤めているスタッフもいたり、入居者の半数が彩雲館利用者なので安心している。

2 ホーム見学

- ・ いどり→七彩ホームの順番で建物内及び入居者の生活の様子見学を行った。

※当日の会議の様子

